

「梅雨」を「つゆ」と読む「謂われ」は？

入梅とともにこちらは曇天の天気が続きっていますが、みな様にはつつがなくお過ごしのことと思います。

さて、あるメル友から入梅の挨拶と共に次のような一文が届いた。

【 日本列島、毎年6月から7月にかけて巡って来る雨期のことを「梅雨（ばいう／つゆ）」と呼びます。

なぜ「梅の雨」なのでしょう？

きっと多くの人が考えたことがあるはずです。

梅は1500年ほど前に遣唐使が唐から持ち帰りました。

梅の原産地が中国であると同様に、「梅雨（ばいう）」の語源も中国にあります。

中国では「梅が熟して黄色くなる時期の長雨」を「黄梅雨（フアンメイユー）」と呼ぶそうです。この「メイユー」が「梅雨」のことなのです。 】

云われてみれば、なぜ「梅雨（つゆ）」というのいかを考えてみたこともなかった。

では、なぜ「梅雨（ばいう）」を「梅雨（つゆ）」と発音する（読む）のかを知りたくなり、あれこれネット検索したが「これだ！」と納得できる答えは見つけられなかった。

「つゆ」は漢字で「露」とも書き、「空気中の水蒸気が冷やされて周囲に付着したものですよね。

梅雨の頃は、湿気でジトジトしているから「露」を連想し「梅雨（つゆ）」と発音するようになったのかな????

なぜ「梅雨（つゆ）」と発音する（読む）ようになったのか、その「謂われ」をご存じの方は、教えていただけませんか。